

神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の数値目標に対する 令和4年度の実績値について

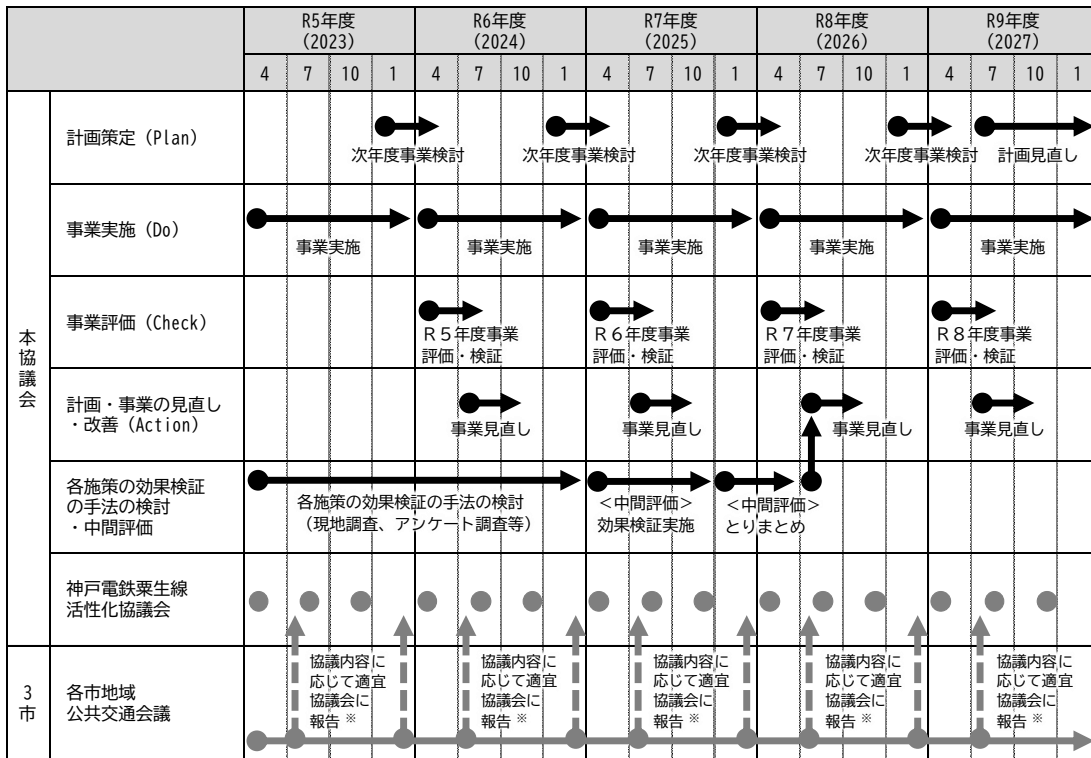
神戸電鉄粟生線地域公共交通計画（以下「計画」という。）の数値目標に対する令和4年度の実績値を取りまとめたので、次のとおり報告する。

1 令和4年度の実績値

別紙のとおり

2 参考（計画の進行管理スケジュール）

「事業評価」及び「計画・事業の見直し・改善」については、下表のとおり、令和6年度以降に実施する予定である。



※ 協議内容に応じて、各市地域公共交通会議開催後の本協議会において協議事項等を適宜報告する。

神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の数値目標に対する令和 4 年度の実績値

基本方針		指標	現況値 (R3)	実績値 (R4)	目標値 (R9)	実績値に対する説明
基本方針 1	鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保	①安全で安定した輸送サービスの確保のための新型車両の導入編成数	—	—	4 編成 (累計)	・R6 年度から新型車両を導入する予定であったが、半導体不足の影響により本年度予定していた各種更新・改良が R6 年度にずれ込んでいることから、設備投資の平準化の観点から、新型車両の導入については R7 年度以降となる見通し。
		②車両や鉄道施設等の更新・改良に対する兵庫県及び沿線市の支援充当率	33% (33.3%)	33% (33.2%)	3 割以上	・地域公共交通確保維持改善事業費補助における国の補助率に合わせ、兵庫県及び沿線市による協調支援の補助率も一部で 1/6 となったものの、支援全体としては 3 割以上の支援充当率を確保した。
		③時間貸 P&R 駐車場の年間利用者数	111 百人	125 百人	142 百人	・目標達成に必要な利用者数+31 百人（目標値 142 百人-R3 現況値 111 百人）に対し、R4 実績値は+14 百人（R4 実績値 125 百人-R3 現況値 111 百人）で、達成率は 45%となった。
基本方針 2	まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築	①-1 住宅地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	8 分 (8.55 分)	7 分 (7.68 分)	7 分	・緑が丘駅において、平日 7~8 時台における神姫ゾーンバス 81 系統（青山 5 丁目⇒駅）のダイヤ調整により待ち時間が 8 分短縮したほか、平日 17~18 時台における神姫ゾーンバス 6 系統（駅⇒防災公園）のダイヤ調整により待ち時間が 10 分短縮し、ダイヤ全体の平均待ち時間としては 8.55 分 (R3) から 7.68 分 (R4) と約 1 分短縮した。
		①-2 企業用地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	5 分 (5.50 分)	5 分 (5.33 分)	5 分	・樫山駅における鉄道及びバスのダイヤに大きな変更はなし。 (ダイヤ改正の際に待ち時間が長期化しないよう重点的に調整する数値目標。)
		①-3 観光地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	5 分 (5.50 分)	5 分 (5.50 分)	5 分	・緑が丘駅における鉄道及びバスのダイヤに変更はなし。 (ダイヤ改正の際に待ち時間が長期化しないよう重点的に調整する数値目標。)
		②神戸市西区・三木市・小野市の工業団地の従業者数	172 百人	173 百人	175 百人	・目標達成に必要な従業者数+3 百人（目標値 175 百人-R3 現況値 172 百人）に対し、R4 実績値は+1 百人（R4 実績値 173 百人-R3 現況値 172 百人）で、達成率は 33%となった。
		③三木市・小野市の観光入込客数	598 万人	713 万人	737 万人	・目標達成に必要な観光入込客数+139 万人（目標値 737 万人-R3 現況値 598 万人）に対し、R4 実績値は+115 万人（R4 実績値 713 万人-R3 現況値 598 万人）で、達成率は 83%となった。
基本方針 3	市民・行政・事業者等の連携による地域公共交通の活性化	①鉄道実利用者数及び沿線地域 1 人当たりの年間鉄道利用回数	627 万人	673 万人	700 万人	・鉄道実利用者数について、目標達成に必要な利用者数+73 万人（目標値 700 万人-R3 現況値 627 万人）に対し、R4 実績値は+46 万人（R4 実績値 673 万人-R3 現況値 627 万人）で、達成率は 63%となった。 ・年間鉄道利用回数について、目標達成に必要な鉄道利用回数+8 回（目標値 44 回-R3 現況値 36 回）に対し、R4 実績値は+3.2 回（R4 実績値 39.2 回-R3 現況値 36 回）で、達成率は 40%となった。
			36 回	39.2 回	44 回	
		②定期の鉄道実利用者数及び沿線地域の生産年齢人口 1 人当たりの年間鉄道利用回数	354 万人	365 万人	370 万人	・定期の鉄道実利用者数について、目標達成に必要な利用者数+16 万人（目標値 370 万人-R3 現況値 354 万人）に対し、R4 実績値は+11 万人（R4 実績値 365 万人-R3 現況値 354 万人）で、達成率は 69%となった。 ・年間鉄道利用回数について、目標達成に必要な鉄道利用回数+6 回（目標値 43 回-R3 現況値 37 回）に対し、R4 実績値は+2.0 回（R4 実績値 39.0 回-R3 現況値 37 回）で、達成率は 33%となった。
			37 回	39.0 回	43 回	
		③定期外の鉄道実利用者数及び沿線地域 1 人当たりの年間鉄道利用回数	274 万人	308 万人	330 万人	・定期外の鉄道実利用者数について、目標達成に必要な利用者数+56 万人（目標値 330 万人-R3 現況値 274 万人）に対し、R4 実績値は+34 万人（R4 実績値 308 万人-R3 現況値 274 万人）で、達成率は 61%となった。 ・年間鉄道利用回数について、目標達成に必要な鉄道利用回数+4 回（目標値 20 回-R3 現況値 16 回）に対し、R4 実績値は+1.9 回（R4 実績値 17.9 回-R3 現況値 16 回）で、達成率は 48%となった。
			16 回	17.9 回	20 回	